駒場 松桜会報

No. 36

駒場高等学校同窓会会報　1981. 6. 30

財団法人 駒場松桜会
〒153
東京都目黒区大橋2-18-1
都立駒場高校仰光寮
TEL (466) 7579
振替口座東京9-28486

巻頭のことば

理事長9東
久保 しげ

一年は夢のように過ぎて、春と共に三百九十余名の新しい会員を迎えました。

明治三十五年に母校が開校いたしましてから本会もその卒業生によって発足、戦前は都立第三高等女学校同窓会でございましたが、戦後松桜会と命名いたしました。名前は変わりましても実態は同じで永い光輝ある伝統の下に、次々と新鮮味を加えて今日まで堅実な歩みを続けてまいりました。

来年は母校も創立から数えて八十周年になりますので、私達も何かお喜びの微意を表したく考えております。但しそれについて特別の募金はいたしません。今までそのために秋の観劇会の純益の中から積立てておりましたものに、今年も同じく秋に観劇会を催してその費用に加えるつもりでおります。

観劇会についての詳細は別項にまとめ、三面に載せましたので、是非お読みくださいませ。

総会の記

風薫る五月十日（日）五十六年度の総会を昨年と同じ母校生徒ホールで開きました。午後一時に開会、理事長あいさつ、校長あいさつに続いて、今年度から生徒会へだけ十万円贈呈、議事の後、廣野園長から駒場幼稚園の現状報告、校歌斉唱で一部を終わり、十分間休憩の後、特別会員、現八王子東高校長の菱刈隆永先生の「生涯教育について」のご講演を伺って、三時半閉会いたしました。

出席は来賓の元校長宮田豊太郎先生、同鈴木満令先生、善方みよ子先生、前理事長7東宮川千代様会員は第三・五十三名、駒場三十九名でした。

尚、菱刈先生のご講演の要旨を是非お読みくださいません。

年会費納入のお願い

卒業時お納めいただく同窓会費は卒業後十年間の前納会費でございまして、会員は十一年目から会費をお納めいただく事になっております。

会費は「松桜会だより」の発行発送など、皆様と本会との通信連絡とそれに伴う人件費等に大部分を使用させていただいておりますが、仲々、全会員からお納めいただくまでには至っておりません。駒場卒五回以上二十一回までの全会員に振替用紙を同封して会報をお送りし送金をお願い致し約千名の方からご協力をいただいたのですが会員数から云えば一割でございました。今年も同じ方法をとりたいと思いますので本会の活動がよりスムーズにより繁栄します様全会員の力を結集していただきたいと思います。

秋の観劇会予告

日　時　10月21日(水)午前10時半開場
場　所　三越劇場（日本橋本店）
演　物　吉田喜重作、演出
「八百屋お七変化」
出演者　岡田茉莉子　外
料　金　3,300円、3,000円、2,500円

お申込方法

級でまとめても個人でもかまいませんがお葉書でお願い致します。
〆切りは9月20日ですがお申込順に席を決めますからお早めにどうぞ。
10月始め席割りの出来次第改めてご案内致します。
全館貸切り550枚ございますので、奮ってご応募下さいます。
満席になりません時は、お申込みの無い級に割当てる場合もございますので御協力下さいます。

ごあいさつ

学校長
松桜会顧問
土屋　尚夫

再び新緑の候となりました。同窓の方々も御元気のことと存じます。学校も新学期のあわただしい時期は過ぎて、いろいろと行事は多いものの一応軌道にのった日々を送っております。年度のかわりには三百九十九名の卒業生を送り新たに四百二十七名の生徒を迎え、ました。社会的に教育の問題が論議をよんでいますが、幸い本校ではマスコミにのるような非行その他トラブルはなく、地味ながら着実に、学校らしい雰囲気を保ちながら成果をあげており、これについては恵まれた環境と伝統の力も大きく働いていると思われます。

御承知のことと存じますが、永い間つづいた学校群制度は、今回の選抜をもって打切りとなり、来年度からは、本校の場合は第二学区の志願者を渋谷新宿目黒三区内の二校のグループで総合的に選抜する方式にかわることになります。

それだけに来年度からは、入学する生徒は大体において本校に入るはっきりした意志をもっていることになるはずで、この点学校の特色など、学校のもつ個性が、これからはますます顕著にあらわれてくるのではないかと思われます。学校の個性は建物や施設や組織予算などの無機的な存在ばかりでなく、伝統や人間関係や生徒の素質や性格、教師の意識など、形としてはとらえることができない、しかもたしかに存在するもの、これらに依ることが多いということを考えるとき、この変化の時期に学校をあずかる身として、責任を痛切に感じております。

昭和五十七年度は、六本木時代より通算八十年を数えることになりますが、この一つの節目を記念するためには、懐古も単なる情緒的なものに終わらせるのではなくこの複雑にして困難にみちた社会の嵐の中に生きる母校の将来に目を向けた「八十年目」の記念でありたいと思うものですが、それにつけても、若い世代の卒業生諸君の積極的な参画を心より希っております。

56年度職員移動

（敬　称　略）

▼ご退職
小貫　房枝（体育）
池田　浩也（事務長）

▼ご転出
野津日出雄（英語）　駒場高校定時制へ
新納　基樹（数学）　小山台高校へ
市川　明（事務）　高村　繁（事務）　城南高校より

▼ご転入
宮崎美代子（体育）　武蔵村山高校より
百済　琢也（数学）　武蔵村山高校より
上森　得男（英語）　忠生高校より

農芸高校へ

55年度母校生徒会
―各部活動状況―

陸上競技部
・インターハイ東京大会
女子総合優勝
・インターハイ関東大会
〔男子〕走巾跳び　4位
やり投げ　1位
〔女子〕砲丸投げ　4位
円盤投げ　1位
走巾跳び　4位
百㍍ハードル1位
四百㍍リレー4位
・インターハイ全国大会（松山）
男子二名・女子十名出場

サッカー部
・関東大会　東京都予選ベスト4
・インターハイ
東京都予選ベスト8
・全国高校サッカー選手権
都大会出場

・バレー部
・女子国体予選都ベスト16
・女子秋季大会新人リーグ優勝
・新人選手権ベスト16

・国体東京代表　二名出場

山岳部
・六月山行　奥多摩
・夏季合宿　北アルプス
・11月山行　丹沢

放送局
・都高校文化祭放送部門出場
ラジオ部門テーマⅠ3位
朗読部門個人2位

KMC（合唱部）
・烏山区民センターで第8回KMCコンサート開催
ブロックアンサンブル同好会
・メンバーが増えて、部に昇格
※その他のクラブの活躍は残念ながら、紙面の都合で割愛させていただきます。

・冬季大会選抜予選ベスト16

バスケット部
・女子インターハイ
都予選ベスト28
・女子新人戦7回戦ベスト28

水泳部
・春季大会総合女子4位
・都高校大会総合女子6位
・関東大会女子百㍍バタフライ4位
・インターハイ
女子百㍍バタフライ9位

体操部
・女子関東大会
都予選団体総合6位
・女子国体都予選団体総合6位

生涯教育について

八王子東高校長
菱刈　隆永

論語の中で孔子が十五才で学を志し、三十才で立ち、四十才で惑わず、五十才で天命を知り、六十才で耳順い、七十才で心の欲する所に従い矩を越えずといわれたのは自分の経験を時期区分したと考えてみた。私自身、七十になって自分の欲するところに従って矩を越えずという気持ちになるだろうかと考えると自信がない。ただ年をとればそうなるというものではないということをしみじみ思います。七十で：という境地になったのは十五で学に志したという出発点があったからだと考えるわけです。これはえらい坊さんが発心するというのと同じだと思うんです。孔子の場合は十五才が出発点で、三十才で自分のいく方向を越えていこうという考えですね。それについては西鶴の「日本永代蔵」からひきましたが「人は十三才まではわきまえなく、二十四、五才までは親の指図をうけ、四十五才までに一生の家をかため、遊楽する事に極まり」という一つの人生プランだと思うんです。四十代というところで区切りをつけています。芭蕉の「笈の小文」をみても三十才で大体の方向が出て、四十代から迷わずにすすんでいった。ある時には倦みて放擲せんと思ったり、人に勝ごうと思ったり、立身出世を考えたり、仏教の道に入ろうとも思ったが、結局無能無芸にして、この俳諧の道に繋ったということで、迷わずすすんだのが四十才になってからだと思います。

自分自身のことを考えてみますと三十代のはじめが人生の危機だったように思われます。専門の職業をつきすすんでいく時期なんですね。

そこで現在も高校教育に従事しているんですが、高校は義務教育ではない。義務教育は他立的な教育の段階で、自立的教育への過渡期が高校、大学の段階だと思います。自分で考えて高校へ入ってくるのはいいが、親に頼まれて入ってきた生徒はやめてくれと、私は言うんです。他立的生活から自立的すぐには切りかえられないから準備段階が必要であって、自分で自分のことが出来るようになっていくんです。自分で自分を律するというのが生涯教育だと思います。それには高校、大学のころから準備をはじめていき、心理的に親からの離乳が必要なんですね。また親の方も子離れしていかなければならない。大学を卒業したら経済的に独立させるべきだと思います。

五十代になって天命を知るというのはキリスト教でいうcalling召命に気がつく事かもしれません。

駒場に二十六年勤務していて、親子二代を教えたことがあるんですね。どうしても比べてしまう。これは教師として、したらいけないことなのです。転勤したいと思った。鈴木満令先生が「校長試験を受けたら」と言ってくださって、これが召命かと思って受けたら通ったんです。新しいところでは比べることがないから、生徒をみる目も新鮮になりました。

聖心女子大の岡宏子教授が人間は六十～七十代が知的活動の最もさかんな時だと話しておられました。肉体の方は三十代に入ると衰えていくから、適当に身体も頭も使う必要があります。

幕末の真木和泉守の書いたものの中に「忠義をつくす場合に、ゆるりと慈義をつくす」という一文があります。私も六十才になったらゆるりとつとめを果たしたいと思っています。死ぬ時は残念ながら一人で死ぬんですね。老後を美しく過ごしたいと思います。私事で恐縮ですが、親父がすい臓ガンで痛んで夜中にうなったんです。女房が気がついて「どうしたの」と聞いたんですね。それからは、嫁が悲しい顔をして見舞ってくれたから絶対ならなかったのです。医者から間接的に聞いたのですが親父は「生まれてくる時は苦しかっただろう。わからないからただ泣いただけで、死ぬのも苦しかろう」と。立派な考え方だと思いました。普段から修業をしていくということが大きな生涯教育でしょうね。他立的なものでなく、自分で考えていくことです。講談社文庫の岸本英夫著「死をみつめて」をお読みいただけたらと思います。覚悟をもって最後まで生きていかなければならないのですね。

また人は子どもを持って孫をもっても成長していくと思います。私は日本史の教師ですが、子どもは親の悪いところが似るもので、良いところが似るものなら、歴史はもっと進歩していたはずです。孫はゆとりをもってみられますし小さい子はグループの中の一番えらい人の真似をするものでね。ということを真似られたら困ると思うと、長年の悪いくせも直っていくのです。教育は育つことを教えることだと思いますから、先生は結婚して子どもを育てることがよいと思います。自分自身が成長しなければ子どもの成長のこともいえないわけです。

ところで私は女子教育をしたいと思って、第三に入って喜んでいたんですが、そのうち男子も入ってきました。男子の数が少ないのは悲惨で、同数になるまで二十年かかりました。私は男子の数が女子よりちょっと多いのが理想的だと思っていますが、実際にはできませんけれど…。

昭和二十年、私は中島飛行機の工場に動員されて大田の工場にいたんですが、そこに二千トンプレスという機械が二台ありました。一台は米国製、一台は日本製。米国製の方がスマートで、日本のは故障が多い。技術将校に聞いたら材料がちがうと言われました。八月に工場から横手に疎開した時、東北大学の松山先生に同じ質問をしてみたんです。先生は、技術というものは

一つは真似をして作る段階

二つめはなんとか自分でやっていける段階

三つめは作ったものに風格ができるものとあり、米国の技術は三番目のもので日本は二番目のものだと言われた。では二番目から三番目に移ることが出来るのかどうかを伺ったら、先生は「君は小さい時、おばあさんからカチカチ山の話を聞いたでしょう。おばあさんが孫に科学の話が出来なければだめだ」と言われた。母はラジオのスイッチを入れるのさえこわがっていました。孫に何を語ることが出来るのかが大切なんですね。だから私は女子教育をしたいと思ったんです。（文責　岡）

コチロンに寄せて

小貫房枝

東京都立駒場高等学校創立六十周年記念誌より抜粋させていただきますと…

・第一回運動会が明治36年11月に行われ、ダンスはカドリールだった。

・明治39年15学級となり、五年でコチロンを習得し卒業した。

・初代校長小林盈先生は、教育の目的を貫徹するにはまず第一に体力が一切を解決するとして、当時第三といえば「足の大きくなる学校」と言われた。

・はかまをはいて闊歩する女学生を評して「ひとまたぎ一間」などいわれたそうであるが、女子が多く座って事足れりとした時、胸をそらせて大またに歩いたその得意さ、今でこそ普通の動作がどんなに目新しく、筆舌をにぎわしたことであろうとあります。

私が昭和21年8月都立第三高女に赴任し、9月現在地で当時元兵舎だった校舎に移転しました。校庭は現在目黒一中の校庭でしたが、未整備で体育の授業は校庭の石拾いから始めました。又週二回学年交替で体育の時間を午後にまとめて、麻布の焼け残った体育館で授業をしました。その時故石川キクノ先生が御指導なさるコチロンの、本校の教育にしめる大きさに驚きました。先ず磨き上げられた床。石川先生の弾かれるピアノのリズムにのって、緊張の中にも流れるような優雅な動き、そして踊る生徒の見かわす暖かい親しみをこめたまなざし。私は感動しました。その年11月3日新しい校庭で終戦後第一回の運動会が行われました。集まる卒業生は八百名を越え、卒業生を真中に上級生が参加し、共にコチロンを踊りました。私は下級生と観覧しており、暮れやすい秋の日は西に傾き、ひとしお感慨深いものがありました。

コチロンについては思い出が多く、また是非書かせていただきたいと念じております。

（私ごと本年3月31日付をもって34年8ヶ月楽しく勤務させていただきました都立駒場高校を退職致しました。本年は講師として週四日勤務致しておりますが、紙面をお借りし、皆様の長い間の御厚情に御礼を申しあげます。）

幼稚園だより…

大切なお客さま

園長　32南　鹿野　京子

その年の園の条件により可能な範囲の値かな人数ながら、知恵おくれ、情緒障害、ダウン症、肢体不自由など障害幼児の受入れをつづけてきました。集団の雰囲気がその子どもたちの発達に何等かのプラスを与え得るとすれば、それは同時に普通児に対しても限りない効果をもたらします。皆がひとりひとりのちがいを当然のこととして認めあいながら、対等の人間関係をつくりあげてゆく――人として育つ上に大切なことを、自然に身につけてゆくように思います。

子どもたちの大好きな保育室の遊具は、赤い機関車、黄、緑、青の貨車と四輌一組の、肌ざわりも色も形も素朴な木製玩具、それは某養護学校中等部生徒の作品です。

しかし生徒たちが課業としての製作の目的を理解するためには、具体的な体験の場――その汽車を使って楽しく遊ぶ子どもたちの姿を、実際に自分の目で確かめることが必要であり、それが次の活動への意欲となることを知りました。その要求に応かなりとこたえられるならばとよろこび、作品の納入を兼ねて、年に一度の交流の機会を持つことになりました。

養護学校生徒二〇名の到着を待ち受けた園児たちは、手をとって保育室に案内します。"汽車"を中心に積木やレゴでトンネルや鉄橋つくりに余念がありません。やがてホールに全員集合"汽車のつくり方"をききます。小さい子どもにもわかりやすく……との心づかいでしょうか、協同製作の"紙芝居"形式により、二～三名を一組に、それぞれの画面を分担して説明が始まります。簡素で明快な画面は、汽車の製作過程――木片をひとつひとつ磨き、接着剤と釘で形をつくり、染料に浸して色付け、入念な検査の結果の合格品四輌一組を箱に納めて包装する――

幼稚園生活のひとこま

にすっかり打ちとけて、食後は思い思いの交流が始まります。ホールの大積木、園庭のジャングルジムや砂場のあそび。二人組のフォークダンスは、どの子も生徒たちと手をつなぐ機会になりました。楽しい時が過ぎて、玄関から門へ並んで見送る園児たち。"さようなら、またきてね"差し出された小さな手をひとりひとり握り返しながら"来年きっとくるからね"

距離的な問題もあり、年に一度の機会ながら、誰よりも大切なお客さまです。

食の準備は年長組の担当です。むかい合うお兄さんやお姉さんについて充分園児の理解を助けます。説明の分担は作業上の担当に重なりその誇りが生徒たちの表情にうかがわれました。結びの言葉とともに一際高い拍手の中、うれしさを包みきれぬ表情の各組園児代表は、一生徒たちの手から新しい汽車の包みを受け取りました。

昭和55年度会計報告

収入決算高	6,760,513
支出決算高	5,489,980
差引残高	1,270,533

① 収入の部

科目		55年度予算高	55年度決算高	過△不足
(1)	管理収入	5,546,274	6,319,323	773,049
1	新入会員会費	1,200,000	1,197,000	△30,000
2	年会費	3,800,000	4,532,900	732,900
3	銀行利息	10,000	53,149	43,149
4	繰越金	536,274	536,274	0
(2)	事業収入	400,000	441,190	41,190
5	観劇収入	350,000	411,690	61,690
6	雑収入	50,000	29,500	△20,500
合計		5,946,274	6,760,513	814,239

② 支出の部

科目		55年度予算高	55年度決算高	過△不足
(1)	管理費	4,200,000	4,125,045	74,955
1	人件費(事務費)	1,800,000	1,807,000	△ 7,000
2	会議費	250,000	187,770	62,230
3	交通費	200,000	223,870	△23,870
4	通信費	1,100,000	1,032,840	67,160
5	渉外費	300,000	331,910	△31,910
6	消耗品費	250,000	241,655	8,345
7	基本金	200,000	200,000	0
8	退職給与積立金	100,000	100,000	0
(2)	事業費	1,350,000	1,294,935	55,065
9	会報編集費	300,000	324,030	△24,030
10	名簿編集費	200,000	200,000	0
11	奨学費	200,000	200,000	0
12	幼稚園寄付	250,000	250,000	0
13	80周年積立金	300,000	300,000	0
14	雑費	100,000	20,905	79,095
(3)	予備費	396,274	70,000	326,274
合計		5,946,274	5,489,980	456,294

(1) 基本金積立金

繰越金(54年度末までの積立金)	4,958,880
雑収入(銀行利息)	409,570
55年度積立金	200,000
合計	5,568,450

(2) 奨学費積立金

繰越金(54年度末までの積立金)	1,040,286
雑収入(銀行利息)	7,783
55年度積立金	100,000
合計	1,148,069

(3) 名簿発行のための積立金

I. 収入高	1,542,147
繰越金(54年度末までの積立金)	1,188,935
雑収入(銀行利息)	87,212
55年度入金(振替現金)	66,000
55年度積立金	200,000
II. 支出高	
発送料、消耗品等	4,160
差引残高	1,537,987

(4) 80周年積立金

55年度積立	300,000

昭和56年度松桜会予算

収入予算高	6,360,533
支出予算高	6,360,533

I. 収入の部

科目		55年度予算高	56年度予算高	増△減
(1)	管理収入	5,546,274	6,000,533	454,259
1	新入会員会費	1,200,000	1,200,000	0
2	年会費	3,800,000	3,500,000	△300,000
3	銀行利息	10,000	30,000	20,000
4	繰越金	536,274	1,270,533	734,259
(2)	事業収入	400,000	380,000	△20,000
5	観劇収入	350,000	350,000	0
6	雑収入	50,000	30,000	△20,000
合計		5,946,274	6,380,533	434,259

II. 支出の部

科目		55年度予算高	56年度予算高	増△減
(1)	管理費	4,200,000	4,150,000	△ 50,000
1	人件費(事務費)	1,800,000	1,300,000	△500,000
2	会議費	250,000	250,000	0
3	交通費	200,000	200,000	0
4	通信費	1,100,000	1,500,000	400,000
5	渉外費	300,000	350,000	50,000
6	消耗備品費	250,000	250,000	0
7	基本金積立	200,000	200,000	0
8	退職給与積立	100,000	100,000	0
(2)	事業費	1,350,000	1,400,000	50,000
9	会報編集費	300,000	350,000	50,000
10	名簿編集費	200,000	200,000	0
11	奨学費	200,000	200,000	0
12	幼稚園寄付	250,000	250,000	0
13	80周年積立	300,000	300,000	0
14	雑費	100,000	100,000	0
(3)	予備費	396,274	830,533	434,259
合計		5,946,274	6,380,533	434,259

諸証拠書類と帳簿照合の結果、収支とも正確に執行されていることを証明します。

昭和56年4月13日

監事　佐伯信義㊞
〃　岡　博子㊞

注）
56年度予算、支出の部の内、予備費が前年度に比べ2倍弱になっておりますのは、56年3月に卒業なさった新会員の前納会費の70%位を今年度予算に計上出来たためで、これは会員の皆様が会費の納入にご協力下さいましたおかげでございまして、将来は全額が来年度予算になるようにしたいと存じます。今までは、年度始めの会議費、会報編集費、発送用切手代等の支出に大変苦しい会計でございましたが、今年度はいくらか余裕が出来ました。

◆新入会員の声◆

よい友だちに恵まれて

二ホーム　鈴木　基宏

緑に囲まれた校庭、広い敷地、この駒場のすばらしい環境の中で過ごした三年間。思い返してみると、満足感と後悔とが入り混じり、自分にとって、駒場での三年間は何だったのかという判断を下せない、複雑な心境になる。卒業後、ほんの数か月しかたっていない現在、そういう気持ちになるのも当然だろうが、友だちに恵まれたなということだけは言い切れる。

学園祭をはじめとする様々な学校行事、クラブ活動　これらのことに、後悔の気持ちが湧かないのは、まわりの友だちの力に負うところが大きく、自分の努力の無さを補ってくれた。

暇さえあればふざけ合い、それでも時にはまじめに討論し、互いに言いたいことを言い合えた友だち。持ちつ持たれつというより、あまりにおぶさることの多かった三年間を終えてみて、彼らの存在は改めて大きく感じられる。

いつまでも頼ってばかりでは、成長は望めず、自分でも自主性が欲しいと感じる。だが、卒業後も友だちは、精神的支えであってくれるにちがいない。友だちの存在が、自分自身の内面の強さにつながっていくようにも思える。今、このような気持ちになれることが三年間の一大収穫なんだと思う。

自分らしさを伸ばして

三ホーム　片岡まり

卒業式の日、私はまたもや失敗した。記念品をいただきに立ち上がる順番を間違え、その上、演壇へ二、三歩歩み出そうとしていたのだ。まわりの友達が、あわてて制服のスカートを引っ張って、連れもどしてくれる。心臓がドキドキし、顔が急に熱くなり、本当番の時は、恥ずかしさにうわの空という有様である。（あ、またやった…）と、〝螢の光〟を歌いながら、悲しい気持ちでいっぱいになった。

式の後は、お世話になった先生方にお礼にまわる。どの先生も笑顔で祝福して下さり、私の失敗などは破顔一笑に付し、「いやー、まりさんらしくて、とても良かったですよ」と、おっしゃる先生もおられた。嬉しかった。ああ、これが駒場だなと思った。一人一人のらしさを見るあたたかな目と、小さな失敗よりも、大きな明日に心を向ける優しさを持つところはそれが放任、甘えにも通じるかもしれないが、駒場なのである。

特に私のように、百パーセント自分らしく生きようと願った人間には幸いであった。例えば、何かに夢中になり、やがて挫折した時に、影に日向に支えてくれた友達も多く、彼らは、私らしさ、私の個性を決して見捨てなかった。数学や化学ができないからと言っても、どうということはない。先生方は、それ以上に大切な事を見てくださった。

明日から、また何かを追って遠く旅に出ても、いつか私はそれを自分らしさを伸ばしてくれた駒場の丘に立ち、笑いながら話してみたい。いつの日にか。

ふれあいの中での信頼感

九ホーム　関　美智恵

精神的に大きく成長し得る時期は、高校時代だと思います。私はこのことを駒場高校生として、保健体育科の一生徒として痛切に感じています。

私達は誰でも自己の主張を持っていますが、同時に、持つに至る時期は感情に動かされ易い不安定な年代なのです。その頃には様々な経験を通して自己の進むべき方向への道しるべである知識を得られますが、自己だけの見解としての域を脱しなければ、獲得したと思われる知識も知識と呼ぶには程遠く、真の精神的成長は遂げられずに、知識の上に成立すると思われる主張もただの偏見となってしまう危険性が大きいのです。

幸い、私達は高校生活という環境の中で、そのような偏見に流されぬよう努力することができました。一つの目標に向かい歩もうという時には、全員がまるで一人の意志であるかのように行動し、その結果に一喜一憂し、感動の涙を何度となく流しました。

そして今、駒場での経験は、これからの人生に不可欠なものであることを確信しています。

あなたにとって駒場高校は？

昨秋の学園祭で、3年6ホーム（担任・緑川日出子先生）が「駒場の卒業生」についての展示発表を行い、なかなかの力作で好評でした。生徒のご好意により、その資料の一部をお借りしましたので、紹介させていただきます。

調査対象は、20代24名、30代17名、40代以上32名計73名でした。

アンケートをお寄せくださった同窓の皆さまには紙面を借りて厚くお礼申しあげます。

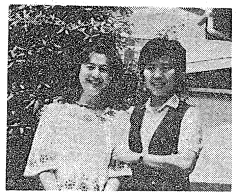
	20代	30代	40代以上
①駒場高校卒業ということに誇りを持っているか			
イ.持っている	13	10	22
ロ.特に感じない	11	6	8
ハ.全く持っていない		1	2
②現在の駒場に関心を持っているか			
イ.持っている	17	11	22
ロ.持っていない	5	6	8
ハ.その他	2		2

③駒場高校をいわゆる進学校（エリート校）と思うか。			
イ.思う	6	1	13
ロ.思わない	16	10	18
ハ.その他	2	6	1
④今後更にレベルダウンが予想されるが、それについてどう思うか			
イ.失望する	6	2	11
ロ.皆で何とかすべきだ	4	2	8
ハ.やむをえぬ	9	6	10
ニ.その他	1	7	3

その他の中には勝手に予想するな、なるようになる、どうでもよいこと、むずかしいといったご意見がありました。

PTAを通しての再会

駒場11―3　張　皐（木村）



張さんと羽島さん

夫の勤務地が変わった為に三年前から神戸は御影の官舎に住みつくようになりました。風光明媚で空気もすんでいて喜んでおりましたが、昔からいわれてきました高級住宅地、なにやら東京育ちの雑人間にはふと異和感を覚える所でもあることがだんだん判明してきました。阪神間人間という言葉を御存知でいらっしゃいますか。芦屋・御影・六甲と自然条件と文化、これも京都に近く真の日本的文化を御影に求めて山上に向かって沢山の高層マンションが建っています。私の子供二人はそこのマンモたわけなのです。昔の御影はこじんまりしたところだったそうです が今は六甲山脈に向かってどんど ん土地を求め山上に向かって沢山 人達のことだそうです。

こういう所に東京から越してきと神戸港と共に古くから存在する西洋文化の両方、これらを兼ねそなえた阪神間、こここそが己が城と誇り、一歩もこの地を動かない

最近4ケ年の進路状況

大学名	年(1) 78.3	年(1) 79.3	年(1) 80.3	年(1) 81.3
北海道大	1	6	3	2
東北大	0	2	4	8
筑波大	5	1	6	6
埼玉大	3	6	6	4
千葉大	7	3	9	9
お茶の水女子大	6	1	0	1
東京大	6	3	0	1
東京学芸大	1	1	2	0
東京工業大	7	2	2	5
一橋大	2	3	1	2
電気通信大	3	1	3	3
東京医科歯科大	0	0	0	1
東京外国語大	6	8	2	5
東京学芸大	18	15	12	23
東京農工大	3	2	3	5
横浜国立大	2	8	19	5
東京都立大	5	6	5	6
横浜市立大	4	3	1	3
他国公立医歯大	7	2	6	1
他国公立大	4	12	8	13
早稲田大	70	67	63	87
慶応義塾大	53	48	35	52
明治大	26	46	31	18
東京理科大	32	33	31	27
中央大	21	30	32	39
日本大	20	30	37	39
青山学院大	29	28	29	32
成蹊大	32	27	29	28
立教大	25	26	28	24
東京女子大	31	20	15	22
上智大	21	17	16	9
学習院大	16	16	23	18
法政大	8	15	31	12
日本女子大	19	14	8	22
東海大	10	12	7	13
明治学院大	5	11	14	16
津田塾大	23	9	13	18
武蔵工業大	9	9	11	6
成城大	6	9	9	6
芝浦工業大	3	8	4	3
日本体育大	2	8	6	6
東京薬科大	2	7	7	7
武蔵大	6	6	8	5
国際基督教大	4	5	3	1
共立女子大	5	5	3	4
明治薬科大	2	5	3	3
東京女子体育大	2	5	0	3
専修大	0	4	3	3
フェリス女子大	3	4	1	1
聖心女子大	3	3	3	4
東洋大	1	3	2	0
共立薬科大	0	3	3	1
武蔵野美術大	1	3	0	1
武蔵野音楽大	1	2	4	2
国立音楽大	1	0	2	2
他私立医歯大	6	2	11	10
他私立体育大	7	3	5	2
他私立大	46	50	56	74
国公立短大	6	2	1	0
東女短大	17	18	27	21
青学短大	7	15	18	16
学習院短大	9	12	18	15
共立女短大	1	7	5	14
上智短大	4	5	1	5
実践女短大	1	4	3	0
恵泉女短大	1	4	2	2
他短大他	35	24	25	38
就職状況				
金融関係	1	1	4	1
製造関係	0	1	8	1
官公庁	3	0	0	0
その他	6	4	13	7

ス校温かい森小学校に通っておりました。今年度からそこの一学級委員に私がなってしまいました。生まれて初めてのPTAです。ビクビクしながら厚生部を選んだ私は部室に向かいました。そこで部長副部長を決めるのだそうです。部屋には副問さんが来ておられ簡単な選挙で開票です。どういうわけか本当にどういうわけかアッという間に私が部長と決まってしまいました。そんな、それは無理ですと抵抗する私に羽島副問と呼ばれる目の大きな役員の方は、キッと私を見すえて言われたのです。

「PTAがなんだっていうのですか。たかがPTAですよ。引き受けて下さい」言い方をこわいと思いました。けれどたかがPTAという言い方に何か小気味よいひびきを感じ部長という肩書きをもらってしまいました。羽島副問と一緒に仕事をしはじめて胸のすくような思いにいっぱい出会いました。頭の切れ味のよさ、卒直な表現の仕方。これはいい友人に恵まれたとPTA参加を嬉しく思ったことでした。

後日二人でうどん屋さんに入る機会がありました。その時が面白かったのです。羽島さんはお店の人に「きつねうどんはおあげだったわね。たぬきがおそばだからとたぬきうどんひとつ」ここで私はハッとしたのです。関西のたぬきとはおそばをさすのです。私はつい最近それを知りました。東大前を下車してダラダラ坂を駒場に向かうあのおそば屋さんで、たぬきといえばあげ玉が入っているものでしたから。「羽島さんは東京でですか」の私の問いに「東京育ちなのよ。駒場高校ってとこ出ています」

私の喜びと驚きはちょっとした喜びが私の最終校と同じベースたらうぬぼれでしょうか。

とにかくPTAを通して先輩後輩にめぐりあい私は今最高にラッキーであることをお知らせしたく一筆書き並べました。皆々様お元気で。

共通の喜びでした。羽島さんはよく人からジャンヌ・ダルクといわれるそうです。又私はドンキホーテといわれることを告げ二人で大笑いしました。この二人の人間に共通しているものを駒場高校が与えたのか、たまたまそうした素地をもったものが駒場に向かったのか。しかし今から二十二、三年前の駒場高校にはそうした校風が存在していたように思えます。

出来の悪い生徒であってもしめつけや差別が少なかったのではありますまいか。そんな気持ちがします。甲子園口にはもう一人の駒場卒の後輩の方が、こちらもPTA副会長となって大活躍されています。阪神間の女三人、やったらつっぱって優雅な関西勢力に少し違った風を送りこんでいるといったらうぬぼれでしょうか。

とにかくPTAを通して先輩後輩にめぐりあい私は今最高にラッキーであることをお知らせしたく一筆書き並べました。皆々様お元気で。

▼……各地からの楽しい便り……▲

福岡　温かい心の交流

桜の季節となりました。福岡での春秋二回の同窓会には、佐賀、佐世保、山口からも、御出席して頂き、楽しいひとときを過ごして居ります。何時も明るい11西伊丹様を中心に、温かな心の交流も深まり、つもるお話に時の経つのも忘れ、次回の集まりを楽しみにしつつお別れして居ります。毎回小野田から出席して居られた高17市河様がお亡くなりになり、淋しく心から御冥福をお祈り致します。

高20西　土井菁代子

長崎　西のはてから

裏山には、つわぶきや、わらびたけのこが出てきて春の食卓を楽しませてくれます。毎年いま頃、数少ないメンバーで同窓会をすることになりますが、それぞれに忙しく、今年はまだ実現しておりません。24西吉見様は、一日が30時間位欲しいわねとおっしゃる程、高校生のお孫さまを預かってお忙しいのに、教会や聖書研究などはりきっておられます。35西栞様は、去年四月から毎週のように福岡―長崎を往復されての御生活大変のようでございます。駒12菅原も、色々なことが不安の世の中、教育の問題、生協のことと、やたら忙しく飛びまわっております。

駒12―2　菅原絃美

沢所　楽しい福引

夜来の雨のあがった三月二十二日地元の山口海一先生御夫妻、同窓会本部より久保理事長様、池田理事様をお迎えして盛大（？）に今年のお集まりを致しました。

毎回御出席の井上様3中のおみ足の工合悪く御欠席は残念でしたが、東久留米の佐藤様38南はじめ地元の武藤様22西、佐久間様26東吉田様28東、渡辺様31中、沢様37北、服部様39西、渋谷様高5、小部様高18、林様高22、佐藤様高25森様駒13、塙様駒10、鈴木様駒15末広様駒27と私久々に楽しい賑やかな一ときを過ごしました。殊に今回は駒場のお若い方が御参加下さり嬉しうございました。

最後に林様お心づくしの手製の可愛いい〝カゴ〟が福引で皆様のお手許にくばられ、なつかしい第三の校歌を合唱してお開きと致しました。だいぶお顔じみもふえたこと故一泊旅行なども良いのではとのお声もあり考慮中です。昭和五十二年以降所沢市へ転入なさった方、又西武線沿線にお住まいの方どうぞ御連絡下さいませ。

38東　秋山靖子

下関　小人数の親しさ

三月九日肌寒い日ではありましたが下関シーモール金剛飯店で23中山内様、27南繁本様、30中江本様、36南茶川様、杉原と五名で同窓会を致しました。丸いテーブルを囲み支那料理をいただき食後には繁本様御土産のしゃれたお菓子山内様は浜松の大きな甘い蜜柑等御馳走になりながら話ははずみ小人数ならではの親しさで女学生にかえりクラスの方々の噂に花は咲きました。

野瀬様お元気ですか、会の度になつかしく思い出されます。悲しいお知らせですが高17市河様昨秋九月癌で亡くなられました。昨春の同窓会に御出席の折あまりのやせ方にもしやと案じて居りましたのにまことに残念に存じ心から御冥福を祈ります。22東　杉原ハナ

名古屋　懐しさと誇りを胸に

愛知、三重、岐阜在住の同窓生が相集う名古屋支部は、何十年もの間、春秋定期的に年二回同窓会を開き、会員一同共に手をたずさえて歩んで参りました。現在会員は約八十名、同窓会へご出席は二十名乃至三十名位です。地元に住みついている方々、転勤などで一次的に当地へお迎えする方々環境老若の差を越えて和やかに交わりの輪を拡げ、喜びを共に致します。

これも母校への懐しさと誇りを胸に秘めてのことでございます。

又、前支部長青木康子様25南現支部長山崎外茂子様34中はじめ諸先輩の温かいご指導によるものと思います。昨年春は名古屋市内八事で懇料理。秋は奈良西の京へ、三重交通バス、パノラマカーで小旅行を楽しみ、法隆寺、薬師寺、大和文華館などを巡り、古都の紅葉を賞でました。43南　島田　山田

倉鎌　なつかしい歌やコチロン

十月十八日好天に恵まれた秋の一日海に臨んだ由比ヶ浜のホテルで開催致しました。

藤沢支部からも数人のご参加もあり総勢三十余名の楽しい会となりました。

24西山岡様、34西筒井様のご尽力でホテル自慢のスペシャルメニューが大変好評でございました。

例年の様に山岡様のピアノ伴奏でなつかしい数々の歌を心ゆくまで歌い、又筒井様のリードで恒例のコチロンを大先輩からお子様連れの若いお母様まで学生時代に戻った様に軽やかに踊り、最後に全員で記念写真を撮り、来年の会で又お逢いすることをお約束して散会致しました。

駒二～五　伊都尚子

西関　ポートピア'81を迎えて

桜の花の開花と同時にポートピア'81の開幕に賑わう関西よりの便りを御送り致します。前支部長西村様御解任後当支部も自治で各地区当番で運営してまいりましたが色々の事情から再び支部長を引継ぐ事になり昨秋大阪「大のや」の同窓会にて、西村様の御発言により出席御一同様の御同意を得て事情に慣れた私がこの責任をおうける事になりました。本部支部の御一同様に紙上にて御挨拶に代えさせて頂きます。過日大谷美術館にて支部長交代の御挨拶をかね春の同窓会を開きました。折りから「マチス展」も開かれ眼やかな楽しい一日でした。昨年の六十周年記念号とし「羅久が記」も八号

を発行致しました。支部皆様との交流も出来ますれば楽しい事に存じます。何卒今後共よろしく御願い申し上げます。24中　櫓井弥栄

沢藤　かくし芸もたのしく

一月二十二日市民会館内で開きました。その折支部会の在り方について皆様のいろいろのご意見があり、鎌倉、茅ケ崎は年に一度秋に藤沢は一月と五月、共に親睦を計ってこれからも湘南支部という大きな輪の一環としてそれぞれの道を歩み、お互により一層緊密に交流を計って行く事と致しました。

午後は有志の方々のコーラス、御謡、百人一首、福引と新春の一日を和やかに過ごしました。

五月には例年通りバス旅行、昨年は奥多摩、御岳山等に参り、雄大な山と水の美しさを心ゆくまで満喫致しました。今年は久しぶりに箱根、真鶴方面に五月の花と新緑を楽しむ予定で心待ちしております。

37北　清野和子

熊本　嬉しいお便り

昨年の同窓会は熊本県北部にある玉名市で致しました。

五月七日、五月晴れの一日同窓生七名（隈訪、田代、片岡、阪田　倫原、福田、池部）高田様のご招待で玉名市（高田様ご主人の郷里）にある岱山苑見学にまいりました。岱山苑は高田様がご主人の遺志をついで社会福祉事業として身体不自由者の為に建立された特別養護老人ホームです。広大な敷地に最新式の施設を供えた苑内を見学させて頂き、菊地川流域にある船山古墳で有名な菊水町に行き重要文化財や古墳の出土品展示館を見学して川魚料理をご馳走になり楽しい一日を過ごしました。

33南の築地正子様の「花絵列島」という歌集が現代歌人協会賞に選ばれ、12中田中美喜様は川柳作家として熊本県文化懇話会芸術功労者として受賞されました。

33東　池部房子

豊文　麻布の丘をなつかしみ

四月六日、椿山荘で一年半ぶりに集まりました。

当日はやや花曇りの趣ながら、おだやかな日和に恵まれまして、九十歳を越された岩勝様3西を始め、宮川様吉村様7東の大先輩の皆様もお元気なお姿をお見せ下さり、途中から乾先生23西の御参加もあり、総勢三十名が、お食事を共にしながら和やかな楽しい午後のひとときを持ちました。順次自己紹介をかねて近況報告やお仕事に関わるお話などを交換し合い終わりに校歌を斎唱して、麻布の丘を懐しみつつ散会致しました。

この様に幅広い年令層のものが相寄り、世代の距てなく親しみあう機会を持つ事が出来ますのも、伝統あるよき母校に恵まれました私共の幸と、しみじみ感じました。

42東　浜高家さくら子

札幌　雪どけも早く

今年は北陸をはじめ、北海道も例年にない大雪という事で、毎日雪かきにおわれておりましたが、三月十八日には同窓会をホテルアルファ札幌で開く事が出来ました。悲しいおしらせでございますが、一月十四日に三沢万里子様19が、東が御逝去なさいました。古矢治子様駒場18も妹子様連れでご出席大へん嬉しい事でございました。

その他の方々もお寒いところ地方からも御出席になり楽しい一時でした。三月の末しばらく家を空けて戻ってまいりましたところ思いの他に雪解けが進んでいるのでつかり嬉しくなりました。

33中　池田和子

仙台　美しい紅葉

秋晴れの美しい十月二十四日、市内北部の閑静な住宅地にあるわま亭で、ささやかな集まりを開きました。

急に御都合の悪くなられた方々もあり、総勢8名の御出席で、お当番の不手際、申し訳なく存じました。

場所は広瀬川をはるかへだてた高台にあり、対岸の紅葉が秋の陽に美しく映えて、その朝の秋冷を忘れる程でした。

お集まりの皆様方のうち御病気上がりの方々も、とても御元気で若い日の想出話から一足飛びにお孫さんの自慢話まで、賑やかにおいきざめして、名物のうなぎ料理を賞味しながら、楽しい時を過ごしました。仙台にはそれぞれ二十年三十年と永住された方々が多くなりましたので、〝住めば都〟の言葉通り、住み馴れた当地のよさもわかるようになったと、年月の積み重ねの貴さを感じました。

40南　柴岡郁子

愛媛　想い出話はつきず

昨年は山中敬子様22東が御結婚以来住み馴れた、愛媛県土居町の由緒ある土地を離れてお嬢様のお近くの東久留米市に御転居になりその送別会を、百花咲き競う四月十二日今治に全会員集合して開きました。お食事を共にし乾ら思い出話は尽きず本当にお名残惜しく一同駅までお見送り致しました。

数少ない会員が減り寂しい事ですが九月には秋の同窓会を松山の二宮様のお世話で道後に集まり、美味しい瀬戸の魚料理を賞味し乾ら楽しい語らいに時を過ごし瞬く間にお別れの時刻となり次の会を楽しみに散会。本年の新年会は一月も末近く厳冬には珍しく小春日和の一日を今治国際ホテルの一室に集まり新年を祝し、互の健康を感謝して乾杯、現在の冷たい世俗の中で心の通い合う暖かい集まりが続けられます様にと祈りながら会を閉じました29東　田坂西千代

陸北　涙のお別れ

昭和三十八年以来の豪雪に見舞われた北陸地方は、屋根雪おろし道路の雪よけ等で今年の冬は、雪との戦いに明けくれてしまいました。

悲しいおしらせ。平岩直合子様24南が昨年十二月三十一日に肺がんの為御逝去なさいました。一月十八日に雪におおわれた寺町の高岸寺で御親友の柴野様21中が葬儀委員長をつとめられ告別式。御主人様の関係で多数の弔問客が列席され私共会員も涙の内にお別れをいたしました。本当にお優しい温厚なお人柄で永らく支部長もお引き受け下さり会の為お世話戴きましたのに……。

十月十九日に大和のスカイラウンジで同窓会を開きました時は手術をなさった由で少しおやつれでしたがお元気そうでしたのに、本当に淋しい事でございます。

その折は福井市の大杉信子様38西から「ポートピアの大料理を賞味し乾ら楽しい一日でした。昨年の暮れに初めて御出席でした。

37中　土田一枝

仰光寮と幼稚園和室の使用規定

【仰光寮】
午前十時～午後四時　日曜・祭日は使用禁止
お茶代　一人百円
ご使用希望の方は学校事務室　（㊟）二四八一へ
直接お申しこみください。

【幼稚園和室】
午前十一時～午後四時　土・日・祭日は除く
一回につき千五百円お茶代一人百円（十五人まで）
十帖和室（冷暖房つき）
お申しこみは幼稚園事務室　（㊟）二九五九へ

〈55年度駒場松桜会行事〉

4月9日　定例観劇会　呉服橋三越劇場
14日　評議員会　年会費値上げの件
54年度決算報告、55年度予算審議
5月11日　総会について
総会場所　母校生徒ホール午後一時～三時　会費なし
議事並びに例年通り学校と生徒会へ十万円ずつ贈呈
鹿野園長の駒場幼稚園現状報告の後前校長市木武雄先生の「江戸時代の漢学について」のご講演　出席者旧校長宮田豊太郎先生　同鈴木満令先生　善方みよ子先生他九十余名　総経費十二万四千五百円
6月14日　定例観劇会　芸術座　離婚　A席四千六百円　30枚
11日　体育祭　三越劇場　ぬかるみの女　三千円　19枚
7月9日　定例観劇会　帝劇　とりかえばや物語　五千百円　19枚
9月10日　定例観劇会　三越劇場　花咲くチェリー三千円　14枚
20・21日　学園祭
10月2・3日　駒場幼稚園運動会
9日・定例観劇会　芸術座　纏屋おせん　四千六百円　20枚
11月5日・秋の観劇会　三越劇場　（貸切）五三九席　新派「恋女房」　水谷良重　安井昌二　菅原謙次　紅貴代　純益四一万一千六百九〇円の内母校八十周年お祝の積立と駒場幼稚園改築資金への寄附
12月3日　定例観劇会　芸術座　雪まろげ　A席四千六百円　12枚
18日　幼稚園クリスマス
56年1月14日　定例観劇会　三越劇場　越前竹人形　三千円　13枚
2月12日　定例観劇会　芸術座　千代の小袖　A席五千百円　21枚
3月7日　母校卒業式　理事出席
11日　定例観劇会　三越劇場　楊貴妃伝　A席三千円　18枚
20日　駒場幼稚園卒業式　理事長出席

編集後記

五月十日母の日に開きました総会をおえ、若葉の美しい季節となりました。

今回の会報には昨年度の母校学園祭での生徒の研究発表のアンケートの一端を載せました。皆さまは如何お考えですか？

また総会でご講演いただきました菱刈隆永先生の「生涯教育について」も、私達のこれからの老後に向かって考えさせられるものかと存じます。

編集のメンバーにまた新しい方をお迎えしました。駒場5～2の小島月子さんです。昨年からの駒場8～6の岡道子さんとの四人でアレコレ頭をひねり、国語辞典をひもときながら、二頁増やして十頁の会報となったわけです。

ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せください。会員の皆さまのご多幸を祈りつつ、筆をおきます。

9東　久保　しげ
37中　吉田　幸

支部最寄会一覧表

札幌	幹事	池田和子（33中）〒062 札幌市豊平区福住1―33―13	電（011）852―1713
仙台	幹事	大脇静枝（16中）〒980 仙台市上杉5―3―70	電（0222）22―0311
藤沢	幹事	清野和子（37北）〒251 藤沢市鵠沼藤ケ谷3―14―4	電（0466）22―7563
静岡	幹事	宮村梅（17東）〒421-11 静岡県志太郡岡部町岡部486	電（0546）67―0184
名古屋	幹事	山崎外茂子（34中）〒458 名古屋市緑区鳴海町白山121	電（052）892―3361
北陸	幹事	土田一枝（37中）〒920 金沢市西町3―15	電（0762）23―2777
京都	幹事	梶田文枝（23西）〒606 京都市左京区下鴨北園町84	電（075）781―1270
関西	幹事	樽井弥栄（24中）〒657 神戸市灘区鶴甲2―11六甲台ハウス3―502	電（078）821―5962
愛媛	幹事	田坂四千代（29東）〒794 今治市米屋町3丁目1―15	電（0898）22―2365
下関	幹事	水野直房（駒5―5）〒851 下関市阿弥陀寺町赤間神宮	電（0832）31―4138
福岡	幹事	伊丹初子（11西）〒810 福岡市中央区平尾3―27―19	電（092）52―9117
長崎	幹事	吉見とします（24西）〒852 長崎市北陽町27―19	電（0958）56―4488
熊本	幹事	福田道子（高17）〒862 熊本市新大江町1―10―22	電（0963）66―1456
米子	幹事	白石喜代子（33西）〒683 米子市河崎3315-38浜河崎団地	電（859）29―5548
自由が丘	幹事	荒井希和子（23東）〒152 目黒区中根2―17―6	電（03）717―1327
武蔵野	幹事	久保しげ（9東）〒180 武蔵野市吉祥寺北町2―18―7松田方	電（0422）22―2884
文豊	幹事	岡博子（19西）〒170 豊島区巣鴨1―4―3	電（03）941―3090
鎌倉	幹事	山岡尚子（24西）〒248 鎌倉市扇が谷1―8―10	電（0467）25―0678
茅ヶ崎	幹事	久木田翠（27南）〒253 茅ヶ崎市菱沼海岸3―7	電（0467）82―5651
所沢	幹事	秋山靖子（38東）〒359 所沢市寿町20―15	電（0429）22―2053